

寛永諸家譜

平氏十九冊之内
良文流

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 (74)
函號	特 76 1





小幡

寛永諸家系圖傳

平氏

良文流

小幡

淺草文庫

● 氏行

安藝國乃人

村上天皇の御子具平親王十三代乃

孫名松則系が末子たり及く開東

都心^{とこ}三^{さん}母^ぼ方^{ほう}の伯^{とく}父^ふ昌^{しょう}山^{さん}が書^かき子^こ也^{なり}
た^たる^る是^{これ}より^{より}と^と平^{へい}氏^し一^{いつ}改^かめ^め
小^こ幡^{ばん}と^と号^{ごう}と^と之^{これ}列^{れつ}本^{ほん}示^し此^{こゝ}郡^{ぐん}司^しと^と也^{なり}
法^{ほふ}石^{せき}常^{じょう}仏^{ぶつ}

崇^{しゅう}行^{ぎょう}

右^{みぎ}表^へ作^{さく} 法^{ほふ}石^{せき}蓮^{れん}心^{しん}

多^た行^{ぎょう}

右^{みぎ}表^へ射^{しやう} 法^{ほふ}石^{せき}榮^{えい}光^{こう}

師^し行^{ぎょう}

右^{みぎ}表^へ作^{さく} 法^{ほふ}石^{せき}宗^{しゅう}光^{こう}

有^{ゆう}行^{ぎょう}

右^{みぎ}表^へ三^{さん}昂^{おう} 法^{ほふ}石^{せき}昭^{しょう}心^{しん}

憲行けんぎょう

右兼みぎかねの作のつく 法名ほふな栄えい親おん

方行かたぎょう

右兼みぎかねの三さん郎らう 法名ほふな栄えい殿でん

憲澄けんじやう

右兼みぎかねの尉ゑい 法名ほふな栄えい隆りゆう

憲言けんげん

右兼みぎかねの尉ゑい 法名ほふな栄えい光くわう

京言きやうげん

右兼みぎかねの尉ゑい 法名ほふな栄えい棟どう

定言じやうげん

右兼みぎかねの三さん郎らう 法名ほふな栄えい風ふう

文^{ふみ}言^{こと}

右^{みぎ}束^{たば}の^の射^や 法^{はふ}名^な宗^{むね}仲^{なかつ}

顯^{あき}る

梅^{うめ}磨^ま守^{もり} 法^{はふ}名^な宗^{むね}賢^{けん}

憲^{けん}重^{しげ}

尾^お張^{はり}守^{もり}

義^ぎ氏^し一^{いつ}法^{はふ}又^{また}後^ご一^{いつ}二^に叔^{しやく}憲^{けん}政^{せい}
房^{ぼう}一^{いつ}又^{また}武^ぶ田^た晴^{はる}儀^ぎ一^{いつ}房^{ぼう}也^{なり}
法^{はふ}名^な新^{しん}政^{せい}あ^あら^らい^いの^の祥^{しやう}純^{じゆん}と^と号^{ごう}也^{なり}

信^{のぶ}真^{まこと}

上^{かみ}總^{そう}介^け

武^ぶ田^た信^{のぶ}玄^{げん}一^{いつ}法^{はふ}人^{ひと}十^{じゆ}八^{はち}歳^{さい}より^{より}あ^あら^らは^はせ^せく
軍^{ぐん}切^{きり}あり^{あり}信^{のぶ}玄^{げん}これ^{これ}を^を感^{かん}一^{いつ}と^と信^{のぶ}真^{まこと}
と^とび^び川^{がは}卒^{そつ}し^しる^る後^ご名^な乃^の張^{はり}也^{なり}

子名かまきしゆし軍あり毎
先鋒より甲州没落の後刺髪して
織田城に依たつては信太のいふ信太の意
しんまされてたりゆらし刺髪しとあれ
かこころなりとも也今より我々を
けつとあつとたり是れしゆらと
名づけく太甫とつふとあり
水原氏連し居し又先鋒とあり
文禄元年名護屋陣のとき京都

しゆし

東照大権現の湯しゆらつり信州

しゆし花しゆ歳五十二

法名家

連之

孫市郎

信真子なりし接へし連之と書きて

しゆし連之実ハ信真が才居るの尉

信秀が子なり信秀武田信玄より
属し武州廣本よりといひく
るげらちりと振く志らる軍切
ありうらら水菜氏と属し下地を
作野とびは是利といひく色も
軍切あり
武之水菜氏より武人氏並より諱の
字といふ

大正十八年秀右衛門宗より全發此

此信玄の同く小田原乃城より
ありうらら信列よりおし

大徳元年より信玄とあらるや有る
か風集人並より命とて武之と
めしうらら家よりといひく大正十
九年十五歳よりいふ

大徳元年より信玄といふ
文祿元年石川屋御陣し信玄
安永五年小山田陣よりいふ

信秀の系図

しつりつ

同年開ヶ原陣ひらがら陣じんに佐々ささ

同十九年元和げんわ名なの大坂おさか交まじ陣じん

陣じんに佐々ささに水旗みづはたあり

重昌しげちか

之集しづめ生國なまくに後河ごが

元和二年七月二十日十一歳よひ

名徳院なとくゐん教しやくに頼たのにまにまにま

同九年十二月二十九日十八歳よひ

將軍家しやうぐんけに福見ふくみにまにま

寛永十七年大水みづ当あ組頭ぐみづかみにまにま

代しろ乃の撰せんととび小鳥こどりにまにま

重昌しげちか

孫まご守もり郎らう

寛永十七年十二月廿七日よひ

小姓組こせうぐみのま当あにまにま

家乃級
竹丸

虎盛

辰と後一武田信純のまゝに虎盛
男子四人女子三人とむすひく甲州
赴くは死葛保とありくわく
小島と称ど武勇た譽あつふりく
足源大将とあり信純信虎二代つふ

孫十郎 織初 山城 生國田家
明應九年十歳少く父とたり

甲州一むし

大永元之に任去誕生れに今川氏の
侍大将福海と総介後にを以て國共
と動こひく甲州一發向とすに
武田乃一族家老とあり退く私宅
入信虎とけり二子れとむすひく
敵共二弟と合戦し勝利とあり
了はと死京憲が外祖父系養徳と敵
乃大将と総介と討れ虎盛ハと総介が

伯父山形漢語寺と討丸養濃寺とび
 虎盛も又ぬく疵とやうな所は切
 りて二人たゞに虎より諱乃字
 とひく養濃寺と虎形と稱し一城
 を虎盛と稱せり乃り任玄乃命
 福信と押入んり乃り
 高坂源正とたり一任列川中島津の
 城二出揃りあり
 永禄四年六月一病死と歳七十一

昌盛

源十郎 又養素 豊後守 生田甲斐
 任玄小幡と總外一命トて幕とひ
 名子と昌盛一好つし心家にとひ
 く小昌とあつるあつる小幡と稱と
 昌盛おつるく父子二代たり一高坂
 源正一屋とひい人小と力乃あつ
 くおつるんあつるしりく川中島津

足利并し同ん此是源よりて伯父孫
お後一く昌盛、任玄の罷下し
ゆり是源二十人馬乘三騎とあづる
永禄甲子川中鴻合戦乃討軍切り
しらく武田家此帯と好るうらふ
は死二十八歳
同六年信玄罷下此武名奉り口人
乃殺り列といふゆり口人古預病
越中守加藤丹後守と原昌書物小指

昌盛たり昌書物に授り刺殺し
昌盛信玄勝頼より感状十七通と交
ふれど甲州乱の是れより
大坂一乱のり京憲
東照大権現乃幕下りゆ糸一
小寺一換田基古束つりわたり
京憲が父昌盛り

天正十年三月六日
病死と
歳
軍十九
のりあり
送ちくしく相良城り川邊
とえきりしりころり
昌盛
手勢三百人ともりあふ
平八交ち本多忠房と
子分上野川小山
富天祚

昌忠

友兵衛 又其弟 生國因
天正十年七月十九歳
大権現

同年

大権現甲州河内國あり
新府
陣乃少き氏連
小糸氏連と御前

大権現は東田七九郎とて信列
教向やむ付し一歎六の岩尾前山元
小屋相本を存五ヶ町陣とらふ
味方ハ勝同方利ハ敵かど人十三
月の乃志と批發はじは昌忠岩尾
しとて下し首級とほり
又前山しとて味方當せん
とらふ名と回布しとて味方引
退んとては昌忠馬とてし

首級とほり乃外志とて軍切
あり

同十二年尾列長久寺合戦の
首二級とほり具しとては僕後
も又首二級とらふ乃志

大権現は東田七九郎とて信列
教向やむ付し一歎六の岩尾前山元
小屋相本を存五ヶ町陣とらふ
味方ハ勝同方利ハ敵かど人十三
月の乃志と批發はじは昌忠岩尾
しとて下し首級とほり
又前山しとて味方當せん
とらふ名と回布しとて味方引
退んとては昌忠馬とてし
あり
同十二年尾列長久寺合戦の
首二級とほり具しとては僕後
も又首二級とらふ乃志
大権現は東田七九郎とて信列
教向やむ付し一歎六の岩尾前山元
小屋相本を存五ヶ町陣とらふ
味方ハ勝同方利ハ敵かど人十三
月の乃志と批發はじは昌忠岩尾
しとて下し首級とほり
又前山しとて味方當せん
とらふ名と回布しとて味方引
退んとては昌忠馬とてし

しきふ

同十三年八月二日真田陣よりとて

味方利をうめりし内より昌忠より外

共士六人深谷村をさへりしあり

よりと味方より地をうりて退き

とゆふりし内

大體現に多作後と正信より命より

つゆも昌忠も陣北交ごせり

はとも我りしとてつゆも奉り

在直

我れはつゆのつれが討死せんやと恐る
今より後を謀かに垂べりみたり
進しつゆ奉りて正信白須平次を
つゆのつれ方と昌忠より告

長正元年六月十七日病死と歳三十六

今年三月より生るるやあの子

家督とゆふ

源次郎 又右衛門 生國同家

天正十年甲子礼礼^{ふし}に^え五歳少く
浪人^{うらひ}となり伴勢^{ばんせい}國^{くに}に^こ織田^{おだ}信雄^{のぶお}
乃^の家臣^{けしん}出方^{いけ}道由^{みちゆ}が養子^{やしよ}たり

同十二年峯陣^{やまじん}乃^の足^{あし}出方^{いけ}勘若^{かんにわ}が
う^う才人^{さいじん}ありと軍^{ぐん}四^よと^と扇^{あふぎ}一^{ひと}矢^や底^{そこ}
と^とふ^ふふ^ふ

同十四年
大権現^{おほいかり}の嚴命^{げんめい}よりと井^い伴^{ばん}若^わ少^{せう}猫^{ねこ}
が^が同^{どう}心^{しん}廣^{ひろ}濃^{のう}森^{もり}濃^{のう}守^{もり}が^が養^{やしよ}子^{しよ}たりと

同十八年小田原^{おだわら}陣^{じん}の^の足^{あし}藤^{ふじ}曲^{まが}痛^{いた}く

と^とち^ちり^り軍^{ぐん}四^よと^と扇^{あふぎ}一^{ひと}矢^や底^{そこ}を
西^{にし}と^とち^ちり^り年^{とし}より^{より}人^{ひと}ありと^と浪^{うらひ}
人^{ひと}と^とち^ちり^り年^{とし}より^{より}人^{ひと}ありと^と浪^{うらひ}

交^{まじ}長^{なが}五^ごの^の関^{せき}ヶ^が原^{はら}陣^{じん}の^の足^{あし}若^わ若^わが^が猫^{ねこ}
が^が後^{のち}り^り由^{よし}系^{けい}一^{ひと}本^{ほん}保^ぼ氏^しが^が陣^{じん}中^{ちゆう}り
と^と馬^{うま}と^と馳^ち進^{しん}と^と諸^{しよ}人^{じん}よ^よさ^さつ^つこ

つらと首級を討つ

同十九年大坂御陣の翌十二月

堀陽に赴陣中よりいへく大

志を吐けり敵共鉄炮を多くと

在連が腹をひ

翌年大坂御陣乃節五月六日水

勘首末とあり使節となり

大和口よりいへくおれよりて

幾あり及むと翌日は戦場

ありと首級を討つ
寛永五年作和山よりいへく病死

系憲

練七郎 勘首末 生國同安

天正十年十二月十一歳

大権現よりいへく

文禄元年二十歳ありと幕下

よりお奔とあり

名徳院殿とてうらこふてまつるゆへに

これなるのりていふと脇五右衛門花井

清心と頼みと井伴と初め御遊政り

控紙とのりていふと秀右衛門遊政のり

ささりて合我あふへとていふと別

遊政り一属り

名徳院殿とて右節とていふとていふ

ていふとていふ

交長三年秀右衛門遊政のりて七月八日

あ月十六日此書伏見藩勤王時

京憲

名徳院殿の御殿り此書りていふと

野村秀右衛門とていふとていふと

ていふとていふと

同日五年京藩謀叛りていふと

大徳院とていふとていふと

名徳院殿とていふとていふと

氏家乃秀とていふとていふと

ふのこく井伴重政の陣中あり
すそ山く石田三成叛逆とあれ
りしりく

大塚現る方一御進發あり申免勝
井伴重政先もなりと法軍と鑑
重憲を重政より方授り一方
おしり政軍の城没落の事重政
追ふる
園ヶ原合戦れと死重政二ふ乃其
死

多らく守田八子の苦と居づるの事
重政の家臣本侯と作終る年若衆小丸山
りしる本侯の陣中れ是將大將脇
本重つとび中村ら若衆并く先を重
重憲の事口人は死れあり馬と進じ
うれ中り重憲を十るなり見
進赤が立れ若乃中り重憲獨り
具是と若とるゆりうれ神ひと
り分ぬたりけり死重政も

先鋒さうの首と坊よりとせし
く京憲くわゆるふ乃首とせし
後者よりも馬より京儲池と右
りたけ疾池り奉五所より
あくと又首級と坊より後者より
首と坊より堪とあれよりと吾
梟とよりと又とじ奉五所より
あくと追留川より一人と斬
同十六年秀於二条城よりおとし

大控現より對面あり京憲のり大坂
合戦ありへと奉とあふとあれより
て酒井三右衛門とこのにて長具馬具
差相若と松平隠岐守定勝とあふけ
遊京憲より幕下りゆりとのり
定勝は奉と坊より
大控現の上より達と

同十九年大坂陣の内京憲は田代が
守り家臣富田越後守陣中に寓居と

十二月廿九日あけがら一旗あり八所
日比登へ赤あがりて陣と張紙はち
一組吉田屋集つ作らぬり赤丸馬おし
へひふ紙はちが陣より矢合の下まで
其百一町地を渡し一京憲くがこ石
よりさるこありのかり進ゆ事十
百ありいは二十百ふりうれ石と糸
一とく呼と、いよく吉田も又吉田氏
乃若汝、父安房守戒が父をばちとえ

来同僚より志うふ今これとあ陣
りあり戒乾しくい汝と緒と合とえ
一とつふ事心交り及ふとてあ
と城中より火をこり筑前守乃
鉄炮頭方伴豆京憲より同く、
け火とふたふこりみる京憲答く、
是狼煙あり今日筑前守ふせり、
城中此共あれと恐る事甚し一故
狼煙とあげく加勢と取ふたり城下

しつふかりしとびいてハ事急ぢか
庭しとせりして他の家も此若
十人五人外より来り老伴直が陣中
しつひと経の鞘とらうて騒動
し同士軍ししよんんとしし付り
京憲とあがりたおんむる乃方とき
新婿の梅の水邊乃しし梅げさ
あこきはあつてありと伴直し若
あい水もししれと結

辰巳刻し九馬がしとせりん
けり敵兵矢念れ下り柵とる人
あいし味方堀乃中へ進入とる
敵鉄炮とるしとれと打京憲経と
柵のししととる五家屋村と庄次郎
鉄炮しあつてうの玉おと海り
朋乃中しあり松山ハ益あれとた
けく退く京憲もさしとる海り
未乃刻し京憲とび家屋二人旗ある

が後長中條又若菜父子川西若菜田村
助左衛門つなざゑもんなぬ安房守とくびあひり乃
共葛左衛門つなざゑもん若とあひりりく一あり
あり京憲きやうけんが、いしく徳人あつり居る
しり鉄炮てつぱうしあつり居るといふ人
若すみやうに引退いんたい居るといふ家
といふ京憲一人あつりりく小堤こつてれ
ひり居るといふ味方乃
とつ子市こちの徳三とくさんがあり京憲あれ

とつりく徳とくともいふ京憲一人あつりり
くあひり居るといふ京憲一人あつりり
一と若士六人あつりり京憲一人
ひり居るといふ味方乃あつりり是と
あつりり日ともあつりり京憲一人あつりり
引退居るといふ京憲一人あつりり
これ、まはる人乃あつりり京憲一人
先陣せんじんありあつり軍四とあつりり
すとつ子市こちあつりり京憲一人あつりり

かゝるにさしあがりたれ爰に
く六人の共士又右のしほをうつと
老伴豆さいのいづくふと死しり京憲きやうけん
伴豆ばんずくいいくく志田父安房しだちちやすらふと
元来もとより親おやと回像わいさうして志田家しだけに
中ちゆうりりああととままざざれれふふ家けままああたり
志田しだははひひりり父ちち乃の教しよとと字あざなすすととふ
奉こああ家け屋やくくすすけけ小勢こせいととんんたたふ
ららびびおおくく殺ころふふべべーーととううとと味方ちかひをを

つとく城中じゆうぢゆうにせめ入いりりふ不ふ幸しやく
ああとと教しよののああららああららんんのの天敵てんてき
かり退たいへへくくどどももれれぬぬもも共士きし母ははここお
れれとといいくくめめとと退たいりりししれれくくり
く先士せんし率りつして引退いんたいしし伴豆ばんず
ととびび京憲きやうけん泳次えいじ右衛門ゑもん三人さんにんののああららい
ととかりかりくく退たいくくりり十じゆ百ひやく計けい討うちく
伴豆ばんず鉄炮てつぱうののああららいいららたたととああらられ
京憲きやうけんこれこれととたたととけけととああらられ

此も至剣もまゝ痛ゆへ一所の
百歩とやとむゆあ度京憲教
若一ひひくく換あまが銃砲大
将方伴豆痕とやうと川邊くゆ
昔勇あふとまりとあれをゆむへ
しとひひく銃とりら伴豆とた
づえとゆりうれ家屋と
あれと技しむとぞあしと京憲
若物とうたふ伴豆が、とくこさし

後中体息せしと死すくち若物た
しに力せしり京憲ゆりくと若来
め教しむひくく我と物と
なたりと平生れ勇とけがえんゆと
恐は弛ゆりくと来ゆりつとゆと
より伴豆と甲く紐頭も田越はる
がしに赴終るれ合我の始末とゆ
ふけ日京憲矢とるつと左の膝と射
られ銃砲とゆりくと右乃股と

翌日の正月中旬に在る物、方より大野
の馬が書とありて、京憲に呈し、
是とありて、京憲に知らせられけし書と
ありて、松平隠岐守定勝より、
定勝は、本と板倉伴兵衛と勝重と
相換と勝重がいと、京憲、
陣よりこのと、右勤とありて、
交つたりと、馬が、まひこ、
一と大坂とありて、

う乃指とありて、
とありて、
京憲に馬が書、
良書とありて、
一とありて、
とありて、
八右衛門とありて、
京師六条とありて、

それら又定勝勝重一ツギ
乃ら二十日一 大坂へ赴くは
主馬京憲一あらんといふ京憲
今日内日ある日たり廿六日
あつて一といふ

同日二十日 日京憲大坂一といふ
今日一といふ一といふ
金たり二一は新たり三少は
浪人等入此法たり一といふ大坂の煙

なり翌日京憲大坂主馬が宅一といふ
一といふ一といふ一といふ
吉川控在つ長友丹波信長聖院本相
あつて一といふ一といふ

日二十七日秀秋の旗大将大野俊徳と
一といふ一といふ一といふ
後通の藤助本村長門藏田一といふ
一といふ一といふ一といふ

日二十八日大坂より伏見へ帰り秀秋

しりあさり天正十六年判此黄金并
り大燈なるがとくふころ乃書札
等と指糸——と京憲として秀頼
り湯刃せりんともといへども
辞——て恋せざるの——と具り
陰波中定勝——と二十九日
定勝はおの赴とつて伴登与勝重に
若勝重がつくまに十二月秀頼控判
乃才一件と信信人を扶助しりしは

しりあさり天正十六年判此黄金并
り大燈なるがとくふころ乃書札
等と指糸——と京憲として秀頼
り湯刃せりんともといへども
辞——て恋せざるの——と具り
陰波中定勝——と二十九日
定勝はおの赴とつて伴登与勝重に
若勝重がつくまに十二月秀頼控判
乃才一件と信信人を扶助しりしは

けりへしとありとこへぞり京憲
幕下とお奔りてよりこのことぞ

二十一年よりいふ今頃のこ

路いふそまつるといふと質なく

てはかまへりといふ日向半葉横田を

二人乃内とまつると質とせむとへ

日向横田をせむも京憲が親族なり

家よりいふ京憲老母并兄孫を

と外姉一人姉女一人甥一人と

お人ともつと質と家り

うとありと是と年浮り磔

せり家へといふ勝重とれら

使るとけりといふ題と後府

云らと家りといふ

大権規秀頼の叛逆と急務の且具

中石とえんがと板倉の藤正と昌

とと休見と赴とじ書校

重昌休見より後府よりゆり

委——くこも梅と云ふと京憲より
勝重——岩くいしく右田藏助が家
人系長とつゝまのりうと大坂と海
——京の町屋より飛石とと海
中北高人大坂よりゆこ梅枝と子
女とよのそと利潤と均取秀枝と慶
美——み子屋つひく、とくま下も
く秀枝より屋中よりん事と強人
の福ひいとと、ちりりめこれとさ

乃男女海中より書教と——とゆと
すまらら三月六日十一日徳政守伴登
者——とびく用心あり——伎男女未
是と大坂より岩と大野一業と謀叛
のとととあつたれととととととと
たやとと京於伏見と礼入屋とと
とつり伴登守のれとととととと後
府——らとととととと勝重京憲
り——とととととと大坂の謀叛あり

不志れども後府の法士もあつて
今定勝衛重が大阪を過つて
いふなりとあつて今油のふりて
大権現とれと伝へ給ふ様と大勅乃
いふなりとあつていふなりと定勝
衛重もいふなりとあつていふなり
同三月七日に多之野分正純 約命と
いふなりと書札とあつて定勝につけて

いふなりと京憲として又大阪に
いふなりと梅子といふなりと
いふなりと京憲といふなりと
大権現御が馬といふなりと
いふなりと同十乃京憲といふなりと大阪
いふなりといふなりと時といふなりと定勝が
いふなりと海井三右衛門衛重が方といふなりと
いふなりと金子八郎といふなりと京といふなりと使といふなりと
いふなりと京憲といふなりといふなりと全銀といふなりと

らばう乃来りて憂どへしとつふ
京憲者もいふかや其時わうく
憂うど是りしよりと密保り
あつたれば後世に恥辱とのこらん
今我は公又十人ありて其後憂
しうくとい用とがかりしと
たび金銀金力此よりするたれ
定勝衛重又あ使とつて京憲
びくくしうく油計略とた

大坂乃去とて京於とるび休見
進發せしむ事たれは西不敵其
ためし悔もつれむしうし合
しうしびと勝利とつりとふ
おしも憂るべしと

大権現のあしど御進發もへし名駕
海中くあつて記教若れあり
勢田指と焼れも味方利とうたふ
へし教り勝利とつるも合戦一あ

しよふあ

大捨状乃由鈴もとてなけるは

うのるし一不慮乃四のあ

しよくち

名酒院教済一人の勲芳たるべし

謀りしりて敵共は發向ぬ月内と

延引しよしよむしうめと

たり京憲答くしよ才一候

しよい味戸とかま番と通

魚一才ニ一宇津川此石山此を撮

るちどれ石海とくくあうくあら

一是敵共は藤西大津り發向し

而此道なり才三く勢多の指れ通

大和より進來るるあうし

是又尋來終ふ一才口は家大

坂へ赴き後家よりしよくび

拘とこしよか大坂此士卒と敵ら初

しよいしよの發向延引乃

ちか子へーり 敬共進教しお定と
いれりしとひく 戒不方より人と
まつくやくせと人として大坂へ
来し一じへこの旨と云右兼八郎と兼
許しとく若へ一教向延引せむと云
月まきくハ浪人拘まふしと云ふ
へ一志くを酒井金子し兼と云ふ
定勝衛重り一若屋一戒はのく
けりしと云ふもら若乃よりと云

書札と云つてはふへくしと云口
つゝ酒祝と云へ一使節乃と云も明
のここの疎と云知へくしと云
大和り一兼修人乃一揆あり是程
米賣賣乃氏のと云と云めと云
且江川水郡り一揆と云人ありはれ
秀頼の母乃國をらふよりと云大坂
と云いごんんと云れしあり才六
西御下巾と云海ありしと云と云

園東ら夫れ風を都中へてこし
これ小も京於伏見絡動せり

大権現御出馬あり
出也京於伏見を發し
すとなり

同日大坂へ赴く平野町へ宿

うの夜大坂の馬と兼舎と
作れ糶米三十石と
すとなり

さる夜橋本に宿あり
百人とやいなふべし
しと京憲の馬が宅

けり此をといふ
けり長次郎といふ
が履とありし

十三日
布施新宮を川邊
母波沼雲院等と

舎と新宮といふ
やく京於

を發しとべ

大権現冥東とび奥州の法軍とて

すくも馬をべと衣織

もとくも守京憲がくも

りたをけくえんゆを祓ぐも

のこす男ふふとつべ

大権現軍若しくなくして

り中進發あるべうの友

大権現天下とつりら

十六年名天世りあ

今度大軍とよりり

うの名願けとん

月秀名り勝うの六月

大権現井伴並政と只二

涉川氏と七年

ゆとつと

は昔此越とらふに今度のみくど大
軍を引率しぬんざうんゆと
志べし新まがし奥川の若旅装
り十日又十方路とく江戸
より江戸といふと若とく若
り十日乃いふゆと所あやし是より
十方路と強く京路と志べし志
む日敷とてり五十日なりうらる
りともやく京路と進發し勢多

橋と橋落は法固而し此合戦とあり
く勝敗速く攻と入る

大権現春秋とてりけとせとゆいぬ
あつと一覽遊しゆふゆあは
天下を秀れたるふと人筆類とて
りす京憲がしく今度

名徳院殿と法と法ありととと
友堂とてり志とびいそとつと
うの友と五翁乃若の中とてり

くまの百人あつはは味方のあつど取
軍しは是

大権現れよくあつてあつたなりあれ
とあつて楽じりり只中務代の新
士のあつていふてまつるべし新
くまの中務代の徳士あつた数一
りとは是魚つとあつていふれら
と秋あ田友堂おもあつていふて
あつていふてあつていふて京憲

くまの中務代あつたの國の三河遠江
後河甲斐信濃作後越後越前近江
尾張美濃實叡八州とあつていふて
二十ヶ國あつたかり安房作竹乃内り
あつたあつた大小といふていふて
一個國より八ヶ國あつたあつていふて
あつていふてあつたあつたあつた
百餘ヶ國將官十餘ヶ國城とあつていふて
あつていふてあつたあつたあつた

ありけし心五美とるく

名述院教り付属一冥東北海め

水

大権現五美といふ御く三方り進

發し給ふべしついで勢多の指

と徳とつよとも江州水郡れ通より

坂なり發向やぐ味方つ道乃而

陣と張へきんやけ路を元應え

大権現保長と救い越あのかおま

酒来しむみ地たれ

大権現乃しとるくつと而たり新ま

志賀唐海しといく射陣

あり堤と築てあせぐん大津

町中の米穀をみそ味方乃若稻た

ふべし京憲が

大権現ありしを敵山れしりし

来り給いありしは山中越より

京がり入給うあ田友堂若も定て

紀糸きいとべー新あらたまがいまく山やまののや
むのののろろよりより将しょうへー京きやう憲けんがい
くく是これ油あぶら、いくく武ぶ道だうくく並ならせさらら
吹ふかかりり坂さか々々地ち形かたち狭せまい
大おほ権けん現げん五ご美み乃の若わ士し悉しつくく家いへ陣ぢんとら
庭にわ々々どどああららいい山やま々々居ゐ或あるは
ハハ馬ま々々居ゐるる此こゝ外ほか可あららずず此こゝ家いへ陣ぢん
とと張はるるああららんん結むす軍ぐんここららいいくく山やま々々
ののややべべーーどどりり一ひと教しやう退たいんんととすすか

内うちれれととあありりんんととせせむむいいつつららりりてて衣い
庭にわへへ入いぬぬ若わ士しとと挑たかかかくく投なげげ候こう突つ
出でくく横よこ合あひひりり将しょうへへ一ひと味あじ方かた々々ららがが
とと道みちななれれどど息いきとと續つ々々本ほん堪たへへくくふふ
へへ一ひとととららをを教しやう若わ士しささららいい市いち々々りり見みとと
ううくくりりいいままふふらら鉄てつ炮ぱうととああららすす
いい味あじ方かた々々ららいいああららすす一ひと只ひと
大おほ権けん現げんとと我われららんん幸さいとと福ふく々々とと城しろ々々
義ぎ々々ののいいくく々々ららいいくく々々ららいい

と定むべし——去年蘇城の内市の難人
系南庄の飢としくんぐる城の中
入るおちりうれ中武道と益ある者
と名くびく鉄砲とくじりて
く蘇城の内婦人小子とくじり
り鉄砲とくじりて城外れを
うきどくりうれとくじりて
乃若るうのりらふゆりて
鉄砲とくじりて幸矢とくじりて

とくはなり蘇城とく教とくせ
くあはるうのりらふゆりて
と勝利とくじりて
大守とくじりて
とねべき評議とくじりて
とせん主馬とくじりて
とくせとくじりて
御墨下とくじりて
とくせとくじりて

伏見の役をこころお甲一京憲が
いづくをわたり二月よりみかづの伏見
乃城代のお殿ふへ〜とて是もあつと
一定しあつていふふ子と井伴が
か猫連政の子の掃部頭連孝を長常接
親ありと大い石巻とつら軍切
ありとありと江州作和山とあゆと
其家后にや山科醍醐乃道とあゆ
一若具是と廻く連孝がなる一命と

情さふとの一廻一里りこれあつと
つふ事な〜の巻等大坂は進發と
つふ事な〜の巻等大坂は進發と
つふ事な〜の巻等大坂は進發と
つふ事な〜の巻等大坂は進發と
つふ事な〜の巻等大坂は進發と
つふ事な〜の巻等大坂は進發と
つふ事な〜の巻等大坂は進發と
つふ事な〜の巻等大坂は進發と
つふ事な〜の巻等大坂は進發と
つふ事な〜の巻等大坂は進發と

才達一とひくされと討ありいは
伏兵を設くも道とらるる味方を
らく息と續ゆも是れ守るの
味方少く勇を練せしむる名と
りうのちいへ今多五十五歳
なり永祿三年信長と義元合戦の時
勇名ありたどり乃歳と考て
吾人とみせばるるに二歳のたまり
そ二歳少く長切をりすと坊んや

皆是るりく名とむさかり縁とを
とむるのち義をりぬのことき
のちのと改め除く候くち人を定
め京師へ發向せむるに
いふ家よりいへ長友丹波に鉄炮の
名數百人と教しやへる京憲か
しへる是れ名をくして京師へ
發向たりとてあれふりて人
伏見へたしてはるる海井三右衛門

若家よりいへば松平定勝板倉
勝重もいれらば後府よりいへば

大塚現法が馬あり是よりいへば大野
馬京憲よりいへば百五十勝の頭と見
とせうは四五十勝を松山八幡と見
く長水よりいへば五十勝の村と見
あつと長水はと英令三子投と見
おれと投と見と英令と見と鉄

砲のまの三百人を拘りて
いへば此は付くは用はつと見
なり三子投と見と英令と見と日
定勝勝重と見と英令と見と
辞していへば鉄砲はまの百人勝
れ共と村と見と英令と見と京憲
とくえと見と英令と見と
いへば我軍方よりいへば敵の
城と見と英令と見と

教の多しういありい味方此處
實とみふべしとらうと誘ふとたかく
いといがちとあつて

日月十方午に刻し妙心寺の長老及
びろの才子作秀之妻と書とり
く告ぐといふ月日下し禪宗と
名と書するはとふら長老此書をな

長老は才禪宗と名と偽まり
然らずとふおもふと勤宗と禪宗人

東方し水月付にけいりやくとて
とらえし集する由ん中絶するあり

二月廿四日と地へ下りて其の
地へ移りて後及伴賀多と悉
すとは中へ引列へ下りて戸伏見

市城へ移る由内へ移るのたくと信
我くある知者く若くせしるる本
らゆり入りの程後し

三月十七日

禪宗

大正馬橋

妙心寺

徳小島脚ノ下ノ今ノかたへ勤業ノ下
 穿入ノ東ノ方ノ中ノ月付ノけいやくノ人
 ことごとく新ノ万山ノ山ノ先ノ方ノ二月
 廿四ノ日ニ他ノ新ノ下ノ別ノ廿ノ日ニ新ノ下ノ
 分判ノ金十枚ノりノとありノこと仕ノて
 ノ様子ノ悉ク隠波ノ友ノ伴賀ノ友ノ下ノこと
 乃ハ中ノ別ノ新ノ下ノとノりノ伏見
 中城ノ新ノ下ノりノ移ノしたるノ仕ノ又

二三ノ中ニ土地ノ新ノ下ノ別ノ新ノ下ノ
 乃セノりノる也ノ中ノ油ノりノかたノハ油ノ
 度ニ新ノ下ノりノ為ノ故ノ大ノ切ノ新ノ下ノ
 ノ下ノ新ノ下ノりノ

乃セノりノる也ノ中ノ油ノりノかたノハ油ノ
 度ニ新ノ下ノりノ為ノ故ノ大ノ切ノ新ノ下ノ
 ノ下ノ新ノ下ノりノ

固ノ新ノ下ノりノ中ノ新ノ下ノりノ馬橋ノ
 乃セノりノる也ノ中ノ油ノりノかたノハ油ノ
 度ニ新ノ下ノりノ為ノ故ノ大ノ切ノ新ノ下ノ
 ノ下ノ新ノ下ノりノ

乃セノりノる也ノ中ノ油ノりノかたノハ油ノ
 度ニ新ノ下ノりノ為ノ故ノ大ノ切ノ新ノ下ノ
 ノ下ノ新ノ下ノりノ

三月十日

あきつ

増田左衛門尉

山形へ書す

固

え
きあつ十日京憲しして大坂しつ家
志れど長老作意とされど志つさ
接へり共書めつ
十日未乃刻京憲の接宿れさる人
此是若も子もいそつりく継長刀
と持く注来ともあかりもさ毎

橋中保在が所よりとらりつり一飲食も
来りど京憲が謀略しそとあつれつ
かあつ一爰しつり京憲小教成
ららつりつりめ我つりつりつり
と爰せど書しつり京憲が候
候とつりつり橋中保在つりつり
今日も飲食来りつり種米なつりやめ
とらりつり高月申しつりつり
お調へつりつりつりつりつり

ゆきかきしとつら
つひの松が浜ち東つ京憲が汗く来より
京憲又小教とちくく松がくわり
く旅宿はききくわあきりく是より
つかりとつら松がゆりく大野さる氏
友丹波墨初大学くはげくく京憲
更くく心とくくし氣くわ
竹田榮藤もくく妙心寺より来り
石乃書くは理ふゆなくく京憲伏見

りくく松平定勝板会勝重と密謀
とちくくくく

大権規

名漣院教りくくはくくゆつべけ
是に於來ありく大坂く来るべく
ゆり百務案れ氏名と屋くこれが
長く并く英令三子扱とあふま
ともかれが辞くくげく是く
ふくくくあくくあくあ

あつちりへ一室といひて京憲堂
初と申す之馬一校たひて海益を
とりんとし十九日一京憲堂なるが命に
よりて和泉の場へ赴く之馬日付
人としてこれと監せしむれより先
之馬長友丹波へ命じて京憲堂なる
新宅と稱し二十一日一京憲堂なる
り許りしりて回るゝもく新宅と申
りお來りりや否やと尋るぐと二十

ちり一歳終りて二十日おたつり
飛子べりてとて一之馬がら
京憲と申すもくもくもくもく
月付とて人と
二十一日一京憲堂なるが命に
二十七日一京憲堂なるが命に
り一尾流りてけい板を本泊
里二十日一伏見りて一具
大坂のゆとかり又京良りて

付し ね平定勝方より海井三在等と
あつて京憲より若くはともく大坂よ
り人どばけりて油とらん守
あれりりりり京憲江別坂なり
後居し

二月十日

大権現二系城より美沖あり羽吾方定勝
勝重 約命とけり京憲とめと甘
り 難父とてと妙心寺に長光と也

じ長光乃、いんく我え来お家たり友し
勢城せどとと家才あり作勢と子
このたて織田を承の子しんくわ妙心寺
乃信とたりとぼりそ信と家と
あり勝重とせとあれり向のるり
吾く、いんく去年勢城乃付は信勢
自らりりしと今返り固勢とと
と復りしといんく勝重京憲がいつ
里才と事と感弟と

大坂落城乃後又月下勿祿尔病死と京
憲勝重のりら一ひく一ひく一ひく長光ちかひなり
い一作さか為なまが命いのちとたもく一信しんと
希き唐たうと一う一てう乃陣じん一し一い
歯は瘡そうと一色いろい一病びやう死しと一信しんと一快かい川せんと
一う一五月ごごと一陣じんと一光ひかり秀ひでが為なく
害がいで一う一好この子こ希き唐たう快かい川せんをを火ひのふ
妙まうなる乃長光ちかひなり命いのち又長光ちかひと教しやくと
乞ね西せい例れいなり勝重かつしゆう京憲きやうけんが事こと様さまなり

遊あそしと感かんしと家いえから祿ろく尔に死ししと
るると一う一信しんと一様さまなり一遊あそしと一られよ
しと一長光ちかひ作な為なまが命いのちと一命いのちと一命いのちと
幸さいと一様さまなり

京憲小傳

長光ちかひ乃正月ごうげつ泉州せんしゆ城じやう一といと
大久保おほくぼ石見いしみの守まもり奴僕ぬがは二階ふたひ一死しす
捕とらへて付つふと一う一う一う一う一京憲きやうけん
あれと教しやくと

日十年依見の江戸町といく石墨
庄三郎の奴僕法とくじき家と藝と
てくくこありあり京憲これと討取
日十三年五月十日江戸市智川
といく河村の付園律乃りあり討取
京憲の一人といく疵とめりあり
京憲尾川清次ありあり河村氏の
廣同といくといく叛逆はまといくこ
まといく

又江戸作和山ありあり廣津氏の許
といくといく叛逆の名といく人是を

斬
京憲裁場といくといく疵とくといく
始終といくといく六ヶ百あり

元和元年四月十九日

大権現京憲と勝重が宅といくといく味方
り大坂と海といくといくありといくといく
谷といくといく右田藏初正重勝の家僕といく

とつゝ名大坂へ通じらるゝとて
う乃亦らけぬりてふらるゝ
もあつとてと

日二十日書札あ通と然とて
主馬が京憲へ授らるるなり甚略

其後内村と庄次郎村八義一庵堂
下ゆらるる事不及下村交換御
鏡也

二月廿日

大野主馬

尾畑勅書

大野現し書と御杖見ありての

尾畑乃字を是少はあらど大井主馬が

し業りて正字と

ゆらるるし書と

將軍と見らるる京憲が出奔乃飛

と謝しこれに人々よけいと

勝重言とて京憲が家臣村と

幕下りて敵とらひ給ひし
しむらう乃地法古れく
利かあど勝利とるべし
大坂城中に於て
三宿氏、堀氏、榎氏、米田氏、五人あり
五人がてし敵共れあり
せめられし我軍より
大坂現も我軍に奉と回しぬ

ゆめりて入るは是とみべし
京憲を
大坂現も
しむらう乃地法古れく
利かあど勝利とるべし
大坂城中に於て
三宿氏、堀氏、榎氏、米田氏、五人あり
五人がてし敵共れあり
せめられし我軍より
大坂現も我軍に奉と回しぬ

三九 松うたんとまふ事あまの
しべー 志うとすみくら十月
教乃 志うとすみくら十月
教乃 志うとすみくら十月
先才 此中 志うとすみくら十月
わう 志うとすみくら十月
志うとすみくら十月
志うとすみくら十月
志うとすみくら十月

あらん 志うとすみくら十月
志うとすみくら十月
志うとすみくら十月
志うとすみくら十月

正月二十日

大権現 志うとすみくら十月
志うとすみくら十月
志うとすみくら十月
同日 志うとすみくら十月
侍大将 志うとすみくら十月

城より為るものしりしに勝重は
ゆきと名姓し連と

大控現想のつとまへて京坊として

尾州義忠の旗下甲斐庄三平合井

伴多兼火付二人とて入て成濃集人正

星と集人正とれらら

是と家りといく

大控現勝重とゆきと勝重を今日の申怒

しりしに勝重はゆきと

大控現もつと水井右をとりて勝重は

也ありしはあ日ゆが考り而むるの理あり

大さ未督控下りといく火付二人と

とらぬしり今日り後控をれと紀ゆえ

う乃類といしゆつこのるゆふ道

百十三人といしゆつこのるゆふ道

大控現もあつり勝重があ日ゆえと威美

ゆきと勝重といしゆつこのるゆふ道

つとむと申かりとてな可くしといふ
右田藏形が家人宗喜等共火付三百余
と披つくり家よりひき松平隠岐守
勝つて二条城とすもろろこ
河内守定切はるく伏見城と守らむ
又月一日勝重 約命とつけ終り
甲子の月一日に大坂乃共糧
しと申す事とすや京憲答へ
いふ倉庫とせむもありあらしむ

又とぞいけふもはり是よりしり
これとてしり勝重しれらるる
えとす

大権現威美しむいと 始しはる春
よりこの京憲後府よりえとす

こころ一としてよりすといふ
かゝりてあて 約命小より是様
大目日向氏清田氏とたし伏見大
坂といふ

名遣院致仕見返とあり難者九人の首
と斬とる乃鼻とる

大権現二系城より沙凱基乃三系京憲大
竹江尾つとる軍切とる

大権現に訪たるゆににせありと武道と
つとるさるありゆが軍切とる

つとる武道とつとるさるありと武道と
つとる是系憲とる

大坂陣結ら板倉伴實吉に多る

安政第の成徳集人正系憲とる

油大坂の軍切わけくありとる

陣北村大坂の油が武書とる

とるゆがとるゆがとるゆがとる

大権現の御武書とる

とりてきたる京憲 巾着りか
名連院敷のゆきしゆ大坂ありあつりゆ
ふく日どや巻くいふあなと舎せ
く二十方ありふ外大坂れりゆき
せ終ふり敷多京憲右きしりふれ
おしく巻く巻へしりりる巻 けり
大権現とてしゆかきと称したまふはま
つふふとあも遠りあふり永井信法と
あつりあつりあつりあつりあつり

昌重

坂十郎 生國同家

文禄元年正月十五歳少く

大権現しりけしりしりしり

同年二月名後屋沖陣しり伏奉
翌年名後屋しりしり病死歳十六

繩つな松まつ

傳つた五ご節せつ

生なま國くに氏うぢ茂しげ茂しげ

實みとと横よこ田た基もと奈な末すえ子こたたりり京きやう憲けん茂しげ

くくみみくくしし

家いへ乃の級きゆう

立た竹たけ小こ虎とら

小こ幡はたとと總そう外がいはは級きゆうととゆゆづづ是これ小こ幡はた氏うぢ

唐たう子し々々級きゆう者しや





